

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01105

研究課題名（和文）多文化共生時代のミュージアムを分析する手法の開発及びその理論化

研究課題名（英文）Developing a Methodology for Analyzing Museums in the Age of Multiculturalism

研究代表者

村田 麻里子（Murata, Mariko）

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：50411294

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ミュージアムが文化的多様性への対応という社会的要請に対してどのような形で応えているのかについて、具体的に捉えるための分析枠組みを手に入れることを目的とした。東京2020オリンピック・パラリンピックを機に、日本の組織でも多様な人々の包摂が求められるようになった状況に対して、日本のミュージアムは果たしてどのように向き合っているのか、あるいは向き合えるのかを検討すると同時に、それらの取り組みを学芸員課程を学ぶ学生達や、博物館関係者自らが可視化し、議論を深めるための方法論を模索した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2つの点で意義があると考えます。まず、日本の文脈における文化的多様性について考え、それを追求できるひとつの方法論を提案できたことである。多様性という概念は、欧米から入ってきたものであるため、日本における多様性を再定義しなければ、追求可能なものにはならない。次に、それを実際に、博物館に関心のある学生が学芸員課程で取り組んだり、博物館の現場スタッフが取り組んで、自らの考えや館の方針を明確化させたりするための、教材という形にしたことである。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study was to obtain an analytical framework for understanding how museums are responding to the demands of cultural diversity in the 21st century. Since around the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games, cultural diversity and social inclusion have become a social demand even in Japan, which is known for its homogenous society. Our research examined how Japanese museums are responding to this situation; eventually, we came out with a program in which students studying in curatorial programs or museum staff themselves can visualize their practices and deepen further discussion.

研究分野：ミュージアム研究、メディア文化研究

キーワード：ミュージアム 多様性 多文化共生 学芸員課程 博物館情報・メディア論 教材 ワークショップ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

「多様性の時代」において、ミュージアムという文化施設が多様な人々を包摂することへの要請は高まっている。

欧米圏のミュージアムでは、多様性の推進とは、白人、異性愛、健常者以外の人々に対して開かれていること、すなわち、多様なエスニシティ、ジェンダー、セクシャリティの人々を包摂することを意味する。具体的には、多様な来館者層が訪れて楽しめること、館内のスタッフの属性が多様であること（特に、白人に偏らないこと）、またコレクションや展示が多様な人々や文化を表象していること、あるいは彼らに配慮したものになっていることなどを目標に取り組んでおり、近年ではダイバーシティ・マネージャーなどと称して推進のための職位が置かれることもある。

日本でも、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催前後から、多様性という言葉は頻繁に聞かれるようになった。しかし、日本社会における多様性の在り方は、欧米圏のそれとは事情や状況が大きく異なるため、上記のような取り組みは、国内のほとんどのミュージアムにとっては他人事に聞こえてしまう。日本の土地柄や状況を踏まえた多様性の在り方や対応をより現実的に検討しなければ、多様性に開かれたミュージアムを目指すことはできない。また、欧米圏のような多文化への取組の蓄積を持たない日本では、そうした変化を捉えて理論化する視座がないだけでなく、その速度の速さから、学芸員課程の内容や理論との乖離も起きている。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究では、日本のミュージアムにおける多様性とは何を意味するのかを考えると同時に、それぞれのミュージアムが、多様性に対してどのような意識・認識を持っているのかが具体的に見えてくるような指標をつくることを目指した。とりわけ、各ミュージアムの取り組みについて、ミュージアムの組織、運用、ファシリティなど複数の側面から総合的に考えられる手立てを模索することであった。そうすることで、学芸員課程の教育にそれを還元する方法論を検討した。

## 3. 研究の方法

当初は、各館の分析ツールのようなものを目指しており、指標づくりの基礎となる情報を手に入れるべく、まずは国内外のミュージアムにおいて調査を行った。具体的には、多文化主義を掲げる欧米圏のミュージアムの視察と、とりわけ多文化や多様性を意識している日本のミュージアムの視察・インタビューを行いながら、項目を抽出し、どのように分類・類型化できるかを検討していった。しかし、検討していけばいくほど、多文化主義は、それぞれに文脈があることがあきらかになってきた。もちろん、これは当初より予想されたことではあり、また本研究の目的そのものでもあるが、海外の、多様性を活動の柱とする調査地のミュージアムと、国内のミュージアムとの間には、多様性や多文化の意味合いと取り組みに対する大きな温度差があるため、両者の調査を続けながら、それらを接合させて語れる地平について探り続けた。

まずは、国内では、時代にあわせてリニューアルを意識的に行っている館や、比較的新しいミュージアム、多様性の取り組みに対して敏感なアートセンターなどを中心に複数の規模や種類の館を訪れ、どのように分析しうるか、その可能性について検討した。

次に、多様性への取り組みが必然となっている海外のミュージアムの調査を、ニュージーランドやイギリスを中心に行った。ニュージーランド調査の主軸となったオークランドの博物館においては、マオリ族との関係を中心に、フィジー、サモア、トンガなどの島嶼国との関係性をいかに構築するかに活動の大部分が置かれている。しかもその活動の大部分が、現在のコミュニティとの関係性の構築、教育プログラム、コレクションマネジメント等、展示以外の活動に軸を置いていた。また、イギリスでは、コミュニティを巻き込んだ文化的多様性に向けた実践活動の長い歴史を持つが、近年はむしろそうした視角が薄れてきている実態についても調査・インタビューできた。一方で脱植民地化という、位相の異なりつつも、多様性と地続きにあるアプローチが盛んになっている状況もみてとれた。

さらに、国内で多文化共生をテーマにした唯一の国立のミュージアムであるウポポイ(民族共生象徴空間)国立アイヌ民族博物館では、オーストラリアのニュージーランドのミュージアムと、先住民文化との関係という点において重なりつつも、日本のアイヌをめぐる特有の事情がみえた。

先述したように、この研究のそもそもの目的は、各ミュージアムがどのように多様性の推進という今日的な課題に取り組んでいるのかを、ミュージアムの組織、運用、ファシリティなど複数の側面から総合的に考えられる手立てを模索することであった。しかし、各館を画一的な多様性の指標を元に評価や査定をしても意味がなく、むしろ、上記の調査の知見を盛り込みながら、それぞれの館が多様性の課題に取り組むことの意味や方法を考えられるツールにしたいと考えた。そこで、参加者が自主的に考えるための仕掛けとして、ワークショップ用の教材を制作することにした。

#### 4. 研究成果

本研究の成果は、ミュージアムにおける多様性に対する認識や取り組みを可視化する教材とワークショップを開発したことと、それを実際に学芸員課程(博物館情報・メディア論)や博物館関係の授業において実践し、その有効性を確認できたことである。既に3つの大学の学芸員課程科目またはミュージアムに関係する授業で合計5回の実践を行うことが出来、専門の異なる多くの学生達からの反応や声を聞くことができた。

教材は、ミュージアムが多様性について考えたり、その推進に取り組む際に起こり得る問題を想定し、4つの分野に分けた18の項目を設けている。「運用(項目01~04)」「ファシリティ(項目05~08)」「ビジュアル・コミュニケーション(項目09~11)」「展示(項目12~18)」の順に並んでいるが、参加者の興味や専門性、授業の進捗状況などに合わせてどの項目から始めても良いようにした。

各項目では、まずミュージアムで起こり得る典型的な状況が課題として提示され、次にA、Bという二つの異なる意見が紹介される。AとBの意見は対立する内容になっているが、どちらの言い分にも一理あるため、容易にどちらかに賛成することは難しくなるように作られている。参加者はAとBの意見を参考に議論を進めるが、そのうえで折衷案やまったく異なる第三の意見に辿り着いても良い。むしろ、AとBの考えを参照しながら議論を進めることで、参加者が各自の視野を広げ、考えを深めていくことがこのワークショップの目的であ

る。そのうえで、実際のミュージアムでの取り組みや実例に基づいてファシリテーターが解説を加え、さらに考えを深めていく。

なお、プログラムは、業績にある「多様性に拓かれたミュージアムを考える教材の製作と実践」(宮田雅子・村田麻里子『愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要』No.9, 2022)でみることができる。

上記文献に示された学生たちの反応からもわかるように、議論するなかで、むしろ各館の取り組みをどうみるかという視点が醸成され、また博物館関係者であれば、そもそも自らの館は、どのように多様性に取り組んで行きたいのか、あるいは現状どのようになっているのかを把握することができる。どの館にも適用できるユニバーサルなデザインは究極的には存在しないため、それぞれの館がミッションや予算、制限などを考慮しながら、何を優先するのか、優先したいのか、そしてその館にとっての多様性とはなにを意味するのかを模索していくしかない。その意味で、数値ではかれる指標ではなく、自ら考えを深めることができるツールであることは、日本の文脈や、各館特有の文脈のなかで考えることを可能にする。

なお今回の教材は、今後も定期的に学芸員課程の中で使用し、必要があれば更新していく予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 宮田雅子	4. 巻 Vol.290
2. 論文標題 街にあふれるサインを読み解く - コミュニケーション・デザインの視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Consultant (建設コンサルタンツ協会)	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 村田麻里子・吉荒夕記	4. 巻 43(2)
2. 論文標題 21世紀のミュージアムと多文化共生 日英における文化的挑戦	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 博物館学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 MURATA, Mariko	4. 巻 April 2019
2. 論文標題 Towards Conceptualizing the "Museums of Cities" in Osaka	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CAMOC Museum of Cities Review	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 村田麻里子	4. 巻 9
2. 論文標題 ミュージアムに出かけよう! 博物館でメディア教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 D-PRESS(一般社団法人デジタル表現研究会会報誌)	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田麻里子	4. 巻 52 (1)
2. 論文標題 オークランド戦争記念博物館にみるニュージーランドの多文化主義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 93-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田 麻里子	4. 巻 53
2. 論文標題 ミュージアムの展示における脱植民地化 : 「コロナル・テクノロジー」を脱構築する手法の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 141 ~ 167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00025458	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮田雅子・村田麻里子	4. 巻 9
2. 論文標題 多様性に拓かれたミュージアムを考える教材の制作と実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Mariko Murata
2. 発表標題 Museums, Globalization and Multiculturalism in Japan
3. 学会等名 International Forum on Humanities, Communication and Arts, 政宜大学国際部・国際学院 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村田麻里子
2. 発表標題 ミュージアムが作り出す新しい公共圏とは
3. 学会等名 シンポジウム：メディア技術がもたらす公共圏，岐阜ピエンナーレ2019，情報科学芸術大学院大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷川竜一
2. 発表標題 灯台の持つ力 かけがえのないつながりを作り出す
3. 学会等名 灯台ワールドサミットin銚子実行委員会主催『灯台ワールドサミットin銚子』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 MURATA, Mariko
2. 発表標題 The Extensions of Museums in Japan: popular culture, participatory art, and cultural diversity
3. 学会等名 Museum Talk at the Museum of Samoa, Ministry of Education, Sports and Cultur（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 TANIGAWA, Ryuichi
2. 発表標題 Colonial Architecture as Heritage
3. 学会等名 Museum Talk at the Museum of Samoa, Ministry of Education, Sports and Culture（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MURATA, Mariko
2. 発表標題 A New Literacy, or a New Public? Reconsidering 'museums as media' in the digital age'
3. 学会等名 Toward a New Literacy for Media Infrastructure, The University of Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MURATA, Mariko
2. 発表標題 Reconfiguring Museums' Publicness in the Age of Globalization
3. 学会等名 The 12th International Conference Crossroads in Cultural Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村田麻里子
2. 発表標題 博物館でメディア教育
3. 学会等名 D-project春の公開研究会 主体的・対話的で深い学びとメディア表現 メディア創造力育成の授業
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 村田麻里子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 197-281
3. 書名 『多様性との対話』(岩淵功一編)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	谷川 竜一  (Tanigawa Ryuichi)  (10396913)	金沢大学・新学術創成研究機構・准教授    (13301)	
研究分担者	宮田 雅子  (Miyata Masako)  (20431976)	愛知淑徳大学・創造表現学部・教授    (33921)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関